

## 私のすすめるこの1冊

野間口 真裕(附属図書館 職員)

### 『ビッグデータ・リトルデータ・ノーデータ：研究データと知識インフラ』

クリスティン L. ボーグマン (著) 佐藤義則, 小山憲司 (訳)

最近、図書館界隈で研究データについて議論することが多くなってきました。政府、研究者、情報担当、研究推進担当、リサーチアドミニストレータ、市民、図書館と多数のプレイヤーの間で検討が進んでいます。そんな最中に出版された本が本書です。この本を翻訳された訳者は佐藤義則先生と小山憲司先生。このお二人の先生は新しい図書館目録のフレームワークやラーニング・コモンズの研究でお名前を拝見していたお二人でした。大学図書館の動きに敏感な先生方がこの本を訳していることをみて、議論だけでなく、今後、図書館は電子ジャーナル・電子ブック、機関リポジトリ、アクティブラーニングといったものだけでなく、研究データについても一定の役割を果たすのだろうと強く感じました。

議論を呼んでいる分野ですが、現実に研究データを保存するとしましても、データは研究者にとってそれぞれ異なる役割をもち、また形式も多種多様です。管理、保存、利用、そして公開、多大なコスト。これらは研究機関にとって大変厳しいものです。この本では研究データを取り巻く概要だけでなく、『科学』、『社会科学』、『人文学』の各

学問の事例研究が紹介されています。「はじめに」、「研究方法とデータ実践」、「事例」、「サイズ問題」、「いつデータが」、「情報源と情報資源」、「知識インフラ」、「メタデータ」、「来歴」、「外部要因」、「経済と価値」、「財産権」、「倫理」、「研究課題」、「データの収集」、「データの分析」、「知見の公表」、「データのキュレーション」、「共有」、「再利用」などといった問題に対して、分野横断的にならべて確認できるという構成をとっています。それらを一つ一つ読んでいくとやっぱり現実には難しいな…と思うところですが、本書は最初から最後まで貫かれている前提があります。それは「データの価値はその利用にある。利害関係者が何をなぜ保存するのか、そして知識インフラの維持のために必要な目に見えない作業への投資について合意することができなければ、ビッグデータもリトルデータも同じくすぐにノーデータに変わってしまうだろう。(p.345)」というところです。

民間企業だけでなく、研究機関の利害関係者が合意できるデータの価値、共通の利益を見だし、学術研究が発展する未来を描くため、その一里塚となる一冊です。



## 自動貸出装置更新しました

自動貸出装置を7月に更新しました。見た目も機能もほとんど変わっていないように見えますが、OSのサポート終了に伴い、10年ぶりの更新です。



今後ともどんどんご利用ください。



## ブランケット



新着図書コーナーの横の棚に貸出用ブランケットをおいています。肌寒いなと思われましたら、館内でお気軽ご利用ください。(使用後は元の場所にお返しください。)



## 雑誌の製本作業について

8月から10月中旬(予定)まで、南館1階・西館3階にある雑誌のうち、2017年~2018年に発行されたものを中心に、一部の巻号が製本作業のため利用できなくなります。

製本後はすべて西館3階(書庫)に並べますので、そちらをご利用ください。

※作業中の製本対象リストを図書館ホームページに掲載しています。



## 図書館講習会のお知らせ

4~7月に実施した講習会を10月にも開催します。詳しくは、図書館HPやチラシをご覧ください。

実施日	曜日	時間
レポート・論文資料収集法(データベース検索編)		
10月1日	火	12:00~12:30
10月2日	水	12:00~12:30
10月3日	木	12:00~12:30
10月4日	金	16:15~16:45
10月7日	月	16:15~16:45
レポート・論文資料収集法(国内論文検索編)		
10月8日	火	12:00~12:30
10月9日	水	12:00~12:30
10月10日	木	12:00~12:30
10月11日	金	16:15~17:15
海外文献検索入門		
10月15日	火	12:00~12:30
10月16日	水	12:00~12:30
10月17日	木	12:00~12:30
10月18日	金	16:15~16:45



## リクエストと投票で話題の本を読もう!

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています!

【リクエストは随時受け付けています。(カウンター横の机)】

- 学習研究目的のものは原則として購入します。
- 学習研究以外の目的のものは、毎月25日までに受け付けた分を1日~15日に館内で投票し、票の多かった本を購入します。(結果によっては購入できないこともあります。)

※読みたい本がありましたらぜひリクエストください。

10月の投票期間は

10月1日(火)~10月15日(火)



「先生になりたいーそれはかなう夢」は、  
京都教育大学のシンボルフレーズです。



どんどん利用してください！



### 学修相談カウンター

10月から再開します！

理数系の院生がいろいろな質問に  
対応してくれます。勉強や就職のこ  
と、先輩に相談してみませんか？



### 企画展示室 (北館1階)

#### MOA美術館伏見区児童作品展

【会期】10月12日(土)～10月26日(土)  
子ども達の力作が展示されます！ぜひ見に来てくだ  
さい。

### 児童書コーナー (南館1階)



学生による絵本のよみきかせ

- ★10月7日(月)  
14:30～14:45  
『14ひきのあきまつり』他
- ★10月21日(月)  
14:30～14:45  
『ぐりとぐら』他

学生作の  
チラシ



#### 今月の絵本カード (学生作)

##### 『りんごかもしれない』

作：ヨシタケシンスケ 出版社：プロンス新社



※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。



## 京都教育大学 それはかなう夢講座

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、  
大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さ  
んを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしてい  
きます。特に、小学校の先生になりたいと思っている  
学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

おにぎり2個  
&お茶付き！  
先着30名

### 第18回のお知らせ

【日時】10月24日(木) 12:10～12:40

【場所】附属図書館1階 リフレッシュラウンジ

【講師】権 眞煥 (家政科講師)

【テーマ】非言語コミュニケーションを科学する

＜概要＞人はコミュニケーションをとる際に言語だ  
けでなく、非言語でのコミュニケーションも行ってい  
ます。非言語コミュニケーションとは主に身振りと表  
情、視線などを表します。実際、生徒に対して行う教  
師の授業はコミュニケーションの一種とも言えるで  
しょう。近年、非言語情報を科学し、検出・可視化す  
る技術が普及しつつあります。では、非言語コミュニ  
ケーションはどのように可視化できるのでしょうか？  
「身体同調現象」という観点から非言語コミュニ  
ケーションを科学する原理を理解し、関連技術を体験  
してみましょう。

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のための  
カリキュラム開発」プロジェクト委員会  
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

＜今月の逸品＞

展示場所：図書館  
(10・11月展示)

『オルフ楽器の木琴』



## 教育資料館 まなびの森ミュージアム

＜お知らせ＞

- ◆【10月の開館日】7日(月)、14日(月祝)、21日(月)、  
28日(月)  
【開館時間】13:30～17:00
- ◆第8回京都・大学ミュージアム連携スタンプラリー  
【開催期間】2019年12月7日(土)まで、好評開催中！  
(本学は参加大学です。)

教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 角田 豊(連合教職実践研究科 教授)

### プロセスレコードによる教師の自己省察とグループ省察会 —中堅中学校教員によるプロセスレコードの具体例—

角田 豊・上良 祐子

京都教育大学紀要. 2018, No. 133, pp. 101-115.

教師の「省察(reflection)」が大切とよく言われますが、2点押さえておきたいポイントがあります。ひとつめは、この言葉には水準の異なる意味が含まれており、そこを押さえて、教師の学校臨床力(子どもを育む力)を考える必要があります。二つめは、実際に省察会を行う際には、報告者が「安心」できる場であることが不可欠ということです。

「省察的実践者(reflective practitioner)」という考え方を広めたショーンや、ALACT モデルを考案したコルトハーヘンの考えを整理すると、「省察」には二つの意味があります。すなわち、①かかわり合いの渦中で、教師の内面で直観的・感覚的になされる、これまでの経験則との「照合(reflection)」である「実践知の生成としての省察力」と、②渦中では十分に意識されていない、自分の内面やかかわり合いについて「事後の検討(reflection)」を行う「ふり返りとしての省察」です。①は教師の感性といえ、②はその感性を磨く作業になります。

プロセスレコードとは、報告者が自分の内面や言動を含め、ある場面の子ども(保護者)とのかかわり合いについて、フォーマットに沿ってシナリオ形式に再構成する(客観化する)もので、潜在的な報告者の思いや、教師-子ども間の相互作用を探索できるようにした省察方法です。この研究では、教職大学院の授業で行われたグループ省察会について分析しています。その中から、教師と中学生の臨場感の溢れるかかわり合いが描かれた一事例を取り上げています。二人の生き生きとしたかかわり合いを読んで、プロセスレコードを使ったふり返りとしての省察をぜひ味わってください。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 133号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>でもご覧ください。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2019年10月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

10/1 後期授業開始

2019年11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

11/6 館内整理日

11/8-10 藤陵祭

11/30 推薦入試

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード→)

<https://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.229 (2019年10月号)

発行日:2019年10月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp



国立大学法人  
京都教育大学  
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION